

体感。感動。感謝。NBUのCOC事業をお伝えします。

文部科学省
地(知)の拠点



日本文理大学COC事業

おおいた、つくりびと

coc-nbu.jp

March 2017 Nippon Bunri University, COC MAGAZINE

普段使いのローカル線 「沿線の日常」に注目。

大分と熊本を結ぶJR豊肥本線。
九州を横断するダイナミックな沿線の鍵を握る、
豊後大野市にある6駅の魅力を探る。



No. 13

「沿線の日常」から見えてきたもの。

学生が現地を訪れ、本気で考えた、6つの駅を巡る「観光の時代」。

JR豊肥本線が通る豊後大野市には6駅が存在する。しかし、過疎化も進む本地域は観光アイデンティティが希薄なため、磨ききれていない魅力や活かされてない資源が多く、観光価値を見出せずにいた。そこで、NBU経営経済学部の学生が課題解決のプロジェクトをスタート。彼らが注目した新たな観光スタイル。それは、ローカル線の日常だった…。

ローカル沿線の日常に地域の魅力が眠っている。

NBU経営経済学部では、2015年度より豊後大野市をフィールドとした活動を続けている。観光を切り口とした新たなコミュニティビジネスの可能性を探るために、同

▲豊肥本線の車窓から広がるのどかな風景に、「なつかしい気持ちになる」と学生たち。

市の名所を訪問し、観光ツアープランを提案するなど順調な成果を残しているなか、昨年4月に発生した熊本地震によりJR豊肥本線は大打撃を受け、今もなお一部不通となっている。大分、熊本両県のつながりが失われている状況下で何ができるのか…本プロジェクトに参加した経営経済学部1、2年生のメンバーは協議を重ね、ひとつのテーマに辿り着く。豊後大野市を通る「沿線の日常」を体感しよう。普段使いのローカル線のなかに、観光価値が眠っているかも知れない…。真夏の太陽が照りつけるなか、豊肥本線沿線の魅力を探し、動画に収める二泊三日の合宿がスタートした。

▲豊後大野市緒方町にある、緒方三社の一つ「二の宮社」でポーズをとる学生。

▲断崖に三尊が刻まれた磨崖仏「犬飼石仏」。凝灰岩の岩壁に掘られた文字などから、歴史の変遷を感じさせる。

▲「日本の滝百選」に選ばれている原尻の滝で、手描きのスケッチを手に撮影。

▲日本1位・2位のアーチ径をもつ、轟橋と出会橋。

学生の感性や視点で新たなスポットを発見。

合宿に参加した40名のメンバーは、犬飼、菅尾、三重町、豊後清川、緒方、朝地の6駅周辺と、豊肥本線を走る列車に乗り込む8つのグループを編成。初日、二日目は、メンバー自身の感性や視点で、「面白い!」、「魅力がある!」、「新しい!」と感動できるスポットを発掘することに費やした。観光マップですでに紹介されている名所だけではなく、新しい観光資源や美しい風景を求めて。滝のように流れる汗を気にもせず、何キロも自転車を漕ぎ続け、険しい山道や路地裏を歩き回った。それぞれのチームが収めた「沿線の日常」の映像。そこに映し出されていたのは、ただの風景ではなかった。地元の人に教えてもらったという伝説の地蔵、宮崎駿監督「千と千尋の神隠し」のワンシーンにそっくりな田園風景、鉄橋をわたる列車のカッコ良さが120%伝わるダイナミックなアングル…それは、学生が自分たちで見つけた豊後大野市の新しい宝物。

その後、各チームは撮影した映像と写真をもとにベースとなるストーリーやプレゼンテーションの制作へと入る。これまでになかった観光スタイルを求めて、様々な意見が飛び交う。

▲新たなスポットを求め、さわやかな風を感じながら…ひたすらレンタサイクルで町を巡る。

「あえて案内図を載せず、スタンプラリー形式でスポットを探して歩いてもらおう」、「携帯の電波が届かないエリアもあるので、紙の地図は欠かせない」、「サイクリングだからこそ、吹き抜ける風や、のどかな風景を満喫できると思う」。8チームの動画と発表内容をひとつにしたプレゼンムービーがついに完成。九州広域観光シンポジウムで発表の時を迎えた。

シンポジウムで披露した豊後大野の新たな宝物。

シンポジウム冒頭、大黒伊勢夫大会実行委員長は、雄大な自然と人々の営みが織り成す豊後大野エリアについて「地域のそのままの日常が、旅行者には大きな魅力になるのでは」と沿線の日常が注目される観光の時代が訪れていることを示唆した。

▲シンポジウムでの学生の発表。緊張の面持ちで本番に臨む。

「鉄道沿線の日常から見えてくる地域の魅力～学生の視点で見るぶんご大野里の旅～」と名付けられた経営経済学部の研究発表が開始された。会場内の灯りが落とされムービーが流れ始める。数分後、明るくなった会場には、学生代表メンバーの晴れやかな姿があった。質疑応答の時間には参加者から「皆さんが感動したスポットのことをもっと詳しく教えてほしい!」、「編集でカットされた映像も見てみたい」という声寄せられた。

シンポジウムを終えた学生代表のメンバーが本音を聞かせてくれた。「正直、最初は何もないかもしれないなぁ…と焦りました。でもコツコツと自分たちの足で地域を巡り、さまざまな発見をするうちに、「たくさんの人にこのまちの魅力を知ってほしい」と強く思うようになってきたんです。日常が溶け込むローカル沿線を題材とした新たな観光のあり方。その答えを探す旅はこれからも続いてゆく。



▲シンポジウムで展示された、各チームの学生たちの手作りポスター。

NEWS

ものがたり観光行動学会シンポジウムで発表。

大分銀行「宗麟館」で開催された「2016年ものがたり観光行動学会九州広域観光シンポジウム」に参加したNBU経営経済学部のメンバー。豊後大野市の沿線の日常をオリジナルの動画に編集して披露するなど、大学生ならではの新しいスタイルのプレゼンテーションが参加者の注目を集めた。今回の取り組みは、「ものがたり観光行動学会誌第6号」でも紹介されている。

▲ものがたり観光行動学会誌第6号表紙

学生たちの活躍は、NBUのCOC特設サイトをチェック!

nbu coc

検索

キラリびと

『おおいた、つくりびと』で活躍する学生、
教職員、地域の皆さんにインタビュー。

13



経営経済学部
経営経済学科2年

平川 彰悟

Q. 今回の豊後大野市でのプロジェクトに参加したきっかけは？

A. 高校時代からボランティアや地域貢献に興味はありましたが、一度も体験することができませんでした。NBUに入学して「人間力育成プロジェクト」をはじめとする社会活動の説明を聞いて、これは大きなチャンスだと感じました。今回、プロジェクトに参加して、ひと月に何度も豊後大野市を訪れることもありましたが、キャンパス内では味わうことができない新たな発見や驚きの連続でした。自分一人で考えるだけでなく、メンバー全員でアイデアを持ち寄り、じっくりと議論を重ねたことも新鮮でした。

Q. 現地での活動を振り返って、印象に残っていることは？

A. 地元の方とお会いして、話を聞くことも多かったのですが、「昔はとても賑やかだったんだよ」、「今の季節ならここがおすすめ!」など、い

ろんなことを気さくに教えていただいたことがとても嬉しかったですね。みなさんの声が僕たちのモチベーションとなりました。これまで地元のみなさんが大切に守り続けてきた歴史や文化について、しっかりと理解したうえで、外からやってきたからこそ、大学生だからこそ見つけることができる「新しい魅力」を、ひとつでも多く見つけたいと思いました。

and more...



PICK UP! COCプロジェクト

2017.2.19 **楽しみながら学ぶ～子どもたちのハートを掴むために…**

第2回NBUチャレンジ教室
～大学生と一緒に遊ぼう～

佐賀県地域の活性化のために、継続的な活動を続けている「Kids Smile Project」。昨年末にはウミネコの会の子どもたちと一緒に餅つき大会を開催。2年生は1年ぶり、1年生は初めての餅つきということもあり、なかなか上手いかず悪戦苦闘する姿も見られたものの、つきたての餅は柔らかくて本当に美味しく、参加者全員に笑顔がこぼれた。みんなで春から育てたお米を使っているのだから、美味しさは保証済み!そして今年2月、子どもたちともすっかり打ち解けたメンバーの次なる企画が「第2回NBUチャレンジ教室～大学生と一緒に遊ぼう～」。

「竹の魅力を楽しみながら学ぶ」。最初に竹についてのクイズや竹の活用方法を分かりやすく説明。その後、竹とんぼや竹ぼっくりの制作に、みんなで取り組んだ。

言葉を交わしたり、作業を手伝ったり…教えるのではなく「一緒に楽しむ」ことが大切。いつしかたくさんの笑い声に教室は包まれていた…。



まだまだあります!
大分県内をステージに進行中のプロジェクトが盛りだくさん。

- 明礬温泉「お地蔵様のおせつたい」
- 若者が感じる祭りの醍醐味
- 初夏のエネルギーで育つ“感じる心”

etc...

くわしくはNBUの
COC特設サイト

coc-nbu.jp



文理科学系
地(知)の拠点

NBU日本文理大学

〒870-0397 大分県大分市一木1727
TEL.097-592-1600(代表)
<http://www.nbu.ac.jp>

- | | | |
|-----------|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 大学院 工学研究科 | <input type="checkbox"/> 環境情報学専攻 | <input type="checkbox"/> 航空電子機械工学専攻 |
| 工学部 | <input type="checkbox"/> 航空宇宙工学科 | <input type="checkbox"/> 機械電気工学科 |
| 経営経済学部 | <input type="checkbox"/> 情報メディア学科 | <input type="checkbox"/> 建築学科 |
| | <input type="checkbox"/> 経営経済学科 | |